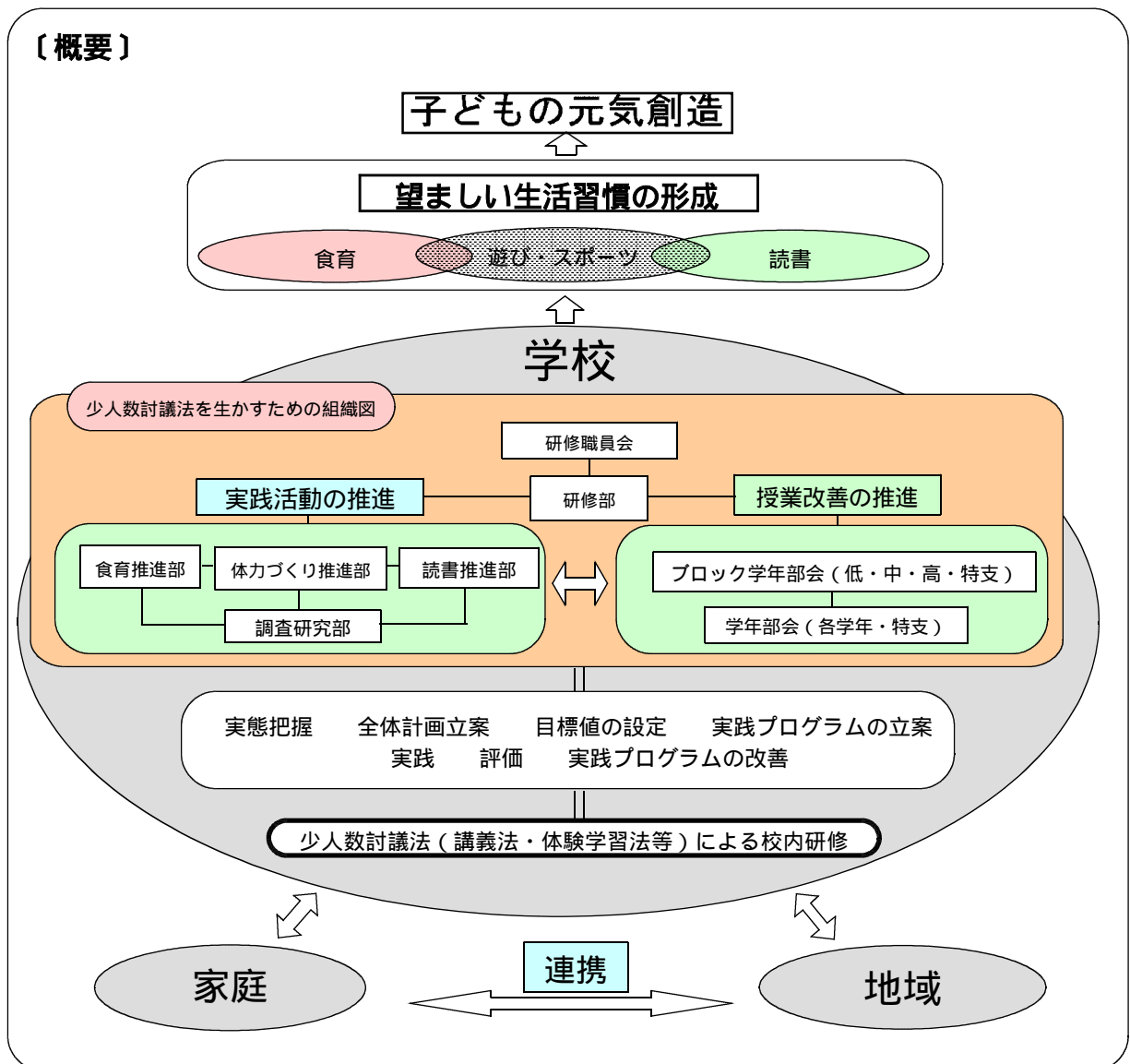


3 「子ども元気創造」の推進をめざす校内研修の在り方



少人数討議法やその他の技法を用いて、「望ましい生活習慣の形成」をめざすための研修

1 研修のねらい

- (1) 少人数討議法を取り入れることで、「食育」「遊び・スポーツ」「読書」に関するプログラムの立案やそれらの改善を図るようにする。
- (2) 体験学習法を取り入れることで、「食育」「遊び・スポーツ」「読書」に関する実践的な指導技能の習得を図るようにする。

- (3) 講義法を取り入れることで、「食育」「遊び・スポーツ」「読書」に関する専門的な知識を深め、教職員の資質や能力の向上を図るようにする。

2 研修プログラムと技法

- (1) 研修プログラムと技法を生かすための研修組織づくり
 - ア 「実践活動」と「授業改善」の2つの研究の場を設定し、各部（4人～8人の少人数）が研修部の下、密に連携を取り合い、共通理解を図りながら研究を進めていくようにする。（上図参照）

(2) 少人数討議法による研修

ア 問題解決法

少人数討議法の中でも、特に問題解決法は、各推進部が設定した目標値と現状値を比較し、その差を埋めるための手立てを考える上でとても有効である。

【討議例】(食育推進部)

朝食欠食率の目標値を年度当初5%と設定したが、2学期中旬に実施したアンケートでは9%の朝食欠食率が認められたとする。そこで、あと4%欠食率を下げるためにはどうすればよいかを、問題解決法を使って話し合うのである。そうすることで、「朝食欠食傾向の強い児童を抽出し、その児童と保護者への個別な働きかけを強化していく」などといった解決策を導き出すのである。

イ 課題討議法

授業研究後の研究協議で使われる技法に課題討議法があるが、この話し合いをより活性化し充実させる手段として、付箋紙の活用が挙げられる。

まず、授業参観直後の感想や意見・質問などを付箋紙に記入してもらったものを集め、KJ法を使って内容別に整理したものを1枚の用紙にそのまま貼り付けるようにする。そして、その用紙を印刷して、研究協議の折に配布するのである。そうすることで、発言のない参加者の意見も把握することができ、さらには、課題に沿った研究協議の司会・進行にも役立つことから、課題討議法を充実させるための手段としては、大変有効であるといえる。



問題解決法による「体力づくりプログラム」改善の話し合い

(3) 体験学習法による研修

中学校や社会団体等から外部講師を招聘しての実技講習や、校内の人材を生かした体験的な研修も、また有効である。

【内容例】()は指導者

ア 児童と作るお手軽レシピについて

(調理師)

イ 走力を高める指導方法について

(中学校の体育教師)

ウ 子どもと楽しむ読み聞かせについて

(読み聞かせの会)

(4) 講義法による研修

外部講師を招聘しての講義の他に、校内の人材を生かした「食育」「遊び・スポーツ」「読書」に関する専門的な研修を、研修委員会の時間に30分程度の「ワンポイント研修」として実施する。〔各学期2回程度〕

【内容例】()は指導者

ア 給食指導の具体的指導方法について

(栄養教諭)

イ 遊びで育つ体力の分析について

(体育主任)

ウ ブックトークのしくみ方について

(図書主任)

エ 生活習慣における風車モデルについて

(養護教諭)



栄養教諭による食育ワンポイント研修

3 研修のまとめ

「食育」「遊び・スポーツ」「読書」に関する研修では、それぞれの領域における専門的な知識の習得を図るとともに、教師自身の意欲や関心を高める必要がある。そのためには、様々な技法を効果的に取り入れることで、研修の活性化を促し、さらには、継続性も高めていくことが重要であると考えられる。